



日程

ホームページを是非ご利用ください。

5月 ～	<p>震度5強以上の時の幹事の役割 「白いタオルで安心作戦」手順:発災→自家の始末→メガホンを持って組のタオルの確認と記録→町内会へ届けて指示を受ける</p> <p>震度の目安 震度5弱=ブラ下げた物が激しく揺れる、棚の食器が落ちることがある。 震度5強=固定していない家具が倒れることがある。 震度6弱=固定していない家具の大半が移動し、ドアが開かなくなることがある。</p>
6月 ～ 合体	<p>震度5強以上の時の家庭の飲料水対策 テキスト10ページ 水の常備量:一人一日3リットルを最低3日間用意、7日間がお勧め 水の運搬と容器:1.バケツ 2.工夫したバケツ 3.ザックなど袋で背負う 4.ペットボトル大で運ぶ 5.買い物手押し車利用 6.エコバック 使用 7.水缶で運ぶ 8.段ボール利用 使用上の工夫:上部が汚れているときはさかさまに水を出し洗う。</p>
7月	<p>家族、市民を救うスキルの取得資格の取得:いずれも費用は町内会で支払います。テキスト32ページ ●救命講習会受講:二人以上の方々に応急手当普及員講師が町内会館で随時講習。(秋に募集) ●救助資機材取扱いリーダー講習会 市内各所で開催。10/11/12/1月に開催(申込先:090-2436-3996)</p>
8月	<p>家庭備蓄品 テキスト10ページ</p> <p>最低、一人3日分の備蓄を推奨 期限付きの物は購入と消費を上手に回転させる。 風呂の水は次の入浴日近くまで保存し災害に備える。</p>
9月	<p>日頃の備え テキスト19ページ</p> <p>これは各家庭の生活・家族構成によって様々です。生活備蓄品 食品備蓄品 衛星備蓄品 排泄備蓄品(凝固剤1回分約60円程目安) などがあります。</p>
10月	<p>震災への備え テキスト8ページ</p> <p>屋内の安全化 転倒防止器具の取り付けの補助。広報で随時行っています。 NPO横浜市まちづくりセンターが受け付けています。045-262-0667 調査員が来て、器具を決める→取り付けに来る(注意)取り付け代金が無料だが器具の代金は有料、取り付け家具は2台まで。 例:タンスなど箱もの、テレビ、ピアノ、電子レンジなど箱物家電、</p>
11月	<p>助け助けられるスキル テキスト28-30ページ</p> <p>近隣住民との助け合いを考える ◎応急手当講習に参加(中学生以上3時間講習で消防長の修了証)費用は町内会負担。 ◎町内会の防災組織の活動経験 ◎町内会防災訓練に参加してみる。 ◎地域防災拠点の利用の知識 防災ライセンス講習会に参加してみる(半日コースもあり)</p>
12月	<p>避難場所 テキスト17ページ</p> <p>◎いっつき避難場所=現在とりきめ無し、 ◎広域避難場所=浅野学園一帯・新子安1,2丁目 =打越公園一帯・子安通1丁目の一部、子安通2~3丁目 ◎地域防災拠点=子安小学校で、防災資機材・食料等の備蓄と、被害情報等の情報受伝達手段設備</p>
1月	<p>地震発災時以後の 予想される過程</p> <p>◎地震発災直後~2分 安全なところに隠れる 火、ガラスから離れる ◎5分後 火、ガス、電気器具に必要な遮断 ◎10分後 余震に注意し、家の安全の確認、確保・家族の確認、確保・情報の入手・周りを確認して避難などの判断 ◎半日後 隣近所の安否確認、助け合い! ◎地震発生半日から3日後は時給自足自分で凌ぐ。 ◎3日後以降行政の支援が得られやすくなる。一週間から一月以後は大きな余震の可能性が大きい。</p>
2月	<p>防災情報へのアクセス テキスト25、26ページ</p> <p>◎横浜市のホームページから危機管理課の情報 ◎横浜市の防災情報Eメールから ◎スマホアプリ"Yahoo防災速報"から テキストページを参考にツイッターから ◎そのほか、災害伝言ダイヤルなども回線が混んだときに有効です。テキストを参考に設定してください。</p>
3月	<p>南部町内会周辺の被害想定テキスト6,7 ページ</p> <p>会員皆さまが、日頃から危ないところを認識することが大事です。 そのうえで自身や家族の避難路を、複数想定しましょう。建築や道路工事により土地の様子も変わるので、その都度認識しましょう。</p>